

みたか国際化円卓会議第 13 期 第 6 回会議録要旨

日 時	令和 6 年 3 月 11 日（火）18：30～20：00
会 場	三鷹産業プラザ 7 階 701 会議室
出席者	委員 5 名（欠席委員 9 名）、事務局 6 名、（傍聴者なし）
【当日配布資料】 （資料 1）第 5 回会議録要旨 （資料 2）第 13 期提言（案） （資料 3）外国語版防災ガイドブック プロット案 （資料 4）第 13 期委員名簿	

【記号について】	
・	委員の発言
→	事務局の発言
【議事内容】	
1 第 13 期提言（案）について	
→資料 2 をもとに説明	
→以前の円卓会議で、紙ベースのものをデジタル化することが重要であるとのご意見をいただいている。来年度から対応することは難しいが、今回の防災ガイドブックも、例えば今後アプリとかたちで提供していくことも検討していくべきではと考えている。	
・自分にとってなじみがあるのは QR コード。費用面も考えると、まずは三鷹市のホームページにガイドブックのデータを掲載し、掲載ホームページの QR コードを各所に掲載するとよいのでは。	
→コストをかけずにという視点は重要。紙のガイドブックを作成するなかで、PDF データも同時に作成できるので、今後のアプリについて検討を行っていくのとあわせて、まずは PDF データをダウンロードいただくところから始められたらよいと思う。	
・気付いた時にいつでもダウンロードできるよう、バスの停留所などにも QR コードを載せておく和良好的では。すぐ見られる場所にあることが大事である。	
→コミュニティバスでは、車内広告や電子掲示板などでも PR できる。	
→市では郵便局と連携して、市内の郵便ポスト等に、防災マップやハザードマップ等が見られる QR コードを載せた防災啓発ステッカーを貼っている。防災ガイドブックも、そこに QR コードを載せて見られるようにすると良いと思う。	
・今期前半で話し合った人権条例も、あまり知られていない。まずは「こういうものがあるよ」ということを知ってもらうことが必要。	
→仰るとおり、どこで受け取ってもらえるか、配布できるかが課題。長く三鷹市に住んでいる人で、普段から市の施設はあまり利用しない方は多くいらっしゃると思われ、むしろそうした方にこそ必要な情報であるが、届ける手段がなかなか無いというのが悩ましいところである。	
・外国籍市民の皆さんは、普段どのように市の情報を入手されているのだろうか。それを把握しないとアプローチも出来ない。学生の皆さんはどうか。	
・興味関心のある分野に対しては積極的に情報収集をしており、例えば元気創造プラザは色々使える施設として知っている学生は多い。ただ防災といった分野については、あまり意識はないように思う。学校で全て対応することは出来ないで、ある程度は自分で対応できるようになって	

もらうために、来年度の新入生から、学生一人ひとりに防災グッズを購入させる新たな取り組みを始める。こうした取り組みを通じて、災害時の対応について伝えていければと思っている。

→始めるきっかけは何かあったのか？

・他校の事例を知ったことがきっかけだった。避難訓練は定期的に行っているが、学校にいない時間帯に災害が起きる場合もある。そうなったら自分で対応してもらうしかないが、学生が自ら防災グッズを用意しておくとは考えにくい。

→市では特に重要な情報はプッシュ通知で発信するなど取り組んでいるが、例えば学生に「市のSNSをフォローしておくといい」といった呼びかけはされているか。

・現場でどの程度対応しているかは把握していないが、自転車を利用する留学生は多いことから、警察からの依頼を受ける形での交通安全講習や、また課外活動として立川市の防災館での災害体験は毎年行っている。学校から学生に情報提供する機会はいくらでも作ることのできるもので、ガイドブックを配布することは出来る。学校が調布市に近いので、三鷹市民ではない学生も一定数いるが、災害時の対応は自治体によって異なるものではないので、ガイドブックを配布して、防災意識を持ってもらう取り組みはできるのではと思う。

・他には、市民として市の新しい情報をどこから入手しているか。

・若い世代はスマートフォンを自由に使えるのでよいが、私は出来ないでコミュニティ・センターを頼ることが多い。ただ家が近くない人など、コミュニティ・センターを知らない人もいる。もっと身近な場所として、例えばコンビニと連携出来ればよいのではと思う。ただ、三鷹は津波の心配もなく災害が起こらないので、普段あまり災害については考えない。

→三鷹国際交流協会（MISHOP）では、毎年 NPO 法人 Mitaka みんなの防災が出前講座をやっている。こうした取り組みを、学校や外国籍市民の集まるコミュニティなどでも行うなど、ただガイドブックを配るだけでなく、ソフト面の仕組みづくりをセットで考える必要がある。

・学校で行う際も、留学生に対してだけではなく、学園祭で三鷹市のブースを設けて全ての学生が見られるようにすると良いと思う。学園祭や MISHOP フェスティバルなど、地域の多様な人たちが多く集まる場所で PR すると良いのでは。

・今日はちょうど 3 月 11 日だが、14 年前の大震災では、東京でも電車も止まったり、コンビニから食べ物が無くなったりと大変な状況だった。こうした時にこそ役に立つ情報が必要である。この時の経験を活かしたら良いと思う。高齢になってから日本に来た方は日本語も難しいし、災害時はパニックになりやすいので、上手く情報を伝えられることが必要だと思う。コンビニは確かに便利で、最近は外国籍市民の店員も多いので、例えばそうした外国籍市民が情報を広めてもらうのも一つの方法だと思う。阪神淡路大震災から 20 年経たずに東日本大震災が起きたというのは、この先とても心配である。

→仰るとおりで、首都直下地震が 30 年以内に起こる確率は 70%以上と言われている。ガイドブックで、こうした数字を示して危機感を持っていただくようにすることも大切かもしれない。

・今後について、本日いただいた意見を提言に追加して提言をまとめ、市長に報告する。提言の最終調整は、我々正副座長と事務局に一任いただくということによろしいか。

（異議なしの声）

→市では現在、2025 年中の完成を目指して、庁内関係各課と外国籍市民向けの防災ガイドブックについて協議を進めている。内容は地震、大雨、台風を中心とし、皆様からいただいたご意見を各項目に反映できるよう調整していく。本日お配りしているプロット案には、これまでいただいたご意見を記載しているが、その中で「外国籍市民の経験談を載せる」というものについては、ぜひ皆さんやお知り合いの方にもご協力をお願いしたいと考えている。

→火災についての情報は載せないのか。先の震災でも、地震後の火災であれだけ大きな被害が出ているので、地震後は火災が起こることを想定した注意を載せても良いのではないか。過去に、近所で火災が発生したので逃げるよう呼びかけられたことがあったが、いざそうなった時に、何を持って逃げればよいか分からなかった経験があり、予め確認しておく必要性を感じた。

・三鷹は地盤が強いので揺れにも強く、津波の心配も無いが、火事は十分起こり得る。以前三鷹消防署の署長から、三鷹にはポンプ車が十数台しかなく各所で地震が起こっても全て対応することはとても無理だという話を聞いたことがある。また地震で電柱が倒れるなどで道が塞がれたら消防車に来てもらうことも出来なくなり、逃げるか自分達で何とかするしかない。

・私はマンションに住んでいるが、例えばマンションで訓練を実施するなど、自分たちで対応できる提案をするのはどうか。

・マンションだと共有の消火器が用意されているが、戸建てだと自分で購入する必要があるのか。どこで買えるのかといった情報も載せると良い。

・家族の家で小さなボヤが起こった際、大声で呼びかけたところ、近所の人たちが消火器やバケツに水を汲んで来てくれたと聞いた。火事は瞬時に燃え広がるのが怖いので、周囲への声がけや協力をあおぐことについても、呼びかけがあると良い。

・市内各所にも公共用の消火器があるが、知らない人もたくさんいると思う。そうした公助の部分と自助をどう絡み合わせて対応するかを知っておくことが大切である。自分達でどこまで対応する必要がある、そのために何を準備しておくべきかといったことを、ガイドブックで伝えられたら良いと思う。

・防災訓練に参加しよう、という呼びかけもあったら良い。

→本日いただいた意見も関係各課と共有し、ガイドブックに反映させていくよう努める。

2 その他

→第13期委員の活動は今回の会議で終了となる。今期2年間の活動に対して、皆さんからぜひ感想をいただきたい。

・今期のテーマは防災と、生活に密着した内容が良かったと感じている。日本人でも知っておくべき内容だと感じた。

・今日のように、皆で顔を合わせて様々な意見を出し合うのは大切だと感じる。日本人と外国籍市民がお互いに尊重し合えるようになっていけば良いと思う。

・今期は多文化共生センター(仮称)といった箱物や、人権を尊重するまち三鷹条例といった理念的なものに対する議論が続き、アイデアは出るがいざ生活に根差したものとしてどう反映させていくか、というところはあった。後半では防災をテーマに、三鷹市が謳う「草の根の国際交流」に通じる、時機を得た話し合いが出来たと感じる。次期の会議でもフィードバックをしながら、草の根の国際交流に根差したかたちでガイドブックをつくっていけたらと思っている。

・今期は、前半が新しい条例や多文化共生センター(仮称)について、後半は防災と、それぞれに大きなテーマを話しあった。もっと議論を深めていけたら、という気持ちもあり、1期1テーマでも良いのかなとも感じる。そうすると2年間と長期間にはなるので、悩ましいところではある。

・今期は前半、かなり難しいテーマだったが、ワークショップを活用したことで皆が意見を出しやすく、多くの意見が出されてとても良かった。三鷹市は、色々なことに取り組み、されにそれを分かりやすい工夫をして発信されていると感じる。今後も三鷹市にぜひ協力していきたいと思う。

・多文化共生センター(仮称)は、今はどのような進捗状況なのか。

→駅前再開発の中で進めていくものだが、その事業スキームも定まっていないため、現時点でお伝えで

きる新たな情報は無い。もう少し協議が進んだ段階で、また皆様にもご報告し、ご意見をいただきたいと思う。

→今後、第14期の委員募集も行うため、委員として継続していただける方は、引き続きよろしくお願いいたします。

以上